

この場所が本当にイエスの磔刑、埋葬および復活の場所であったかどうかは分かりません。いずれにせよ、当園は確かに福音書の記述の詳細に合致するため、最初のイースターの朝に起こった素晴らしい出来事を想像する助けになることでしょう。

「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだらうが、あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。」(マタイによる福音書 28 : 5 - 6)

イエスの磔刑、埋葬および復活の場所について論争の余地はありますが、『聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。』(ローマ人への手紙 1 : 4)ということについては全てのクリスチャンが一致してしています。

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」

(ヨハネによる福音書 11 : 25 - 26)

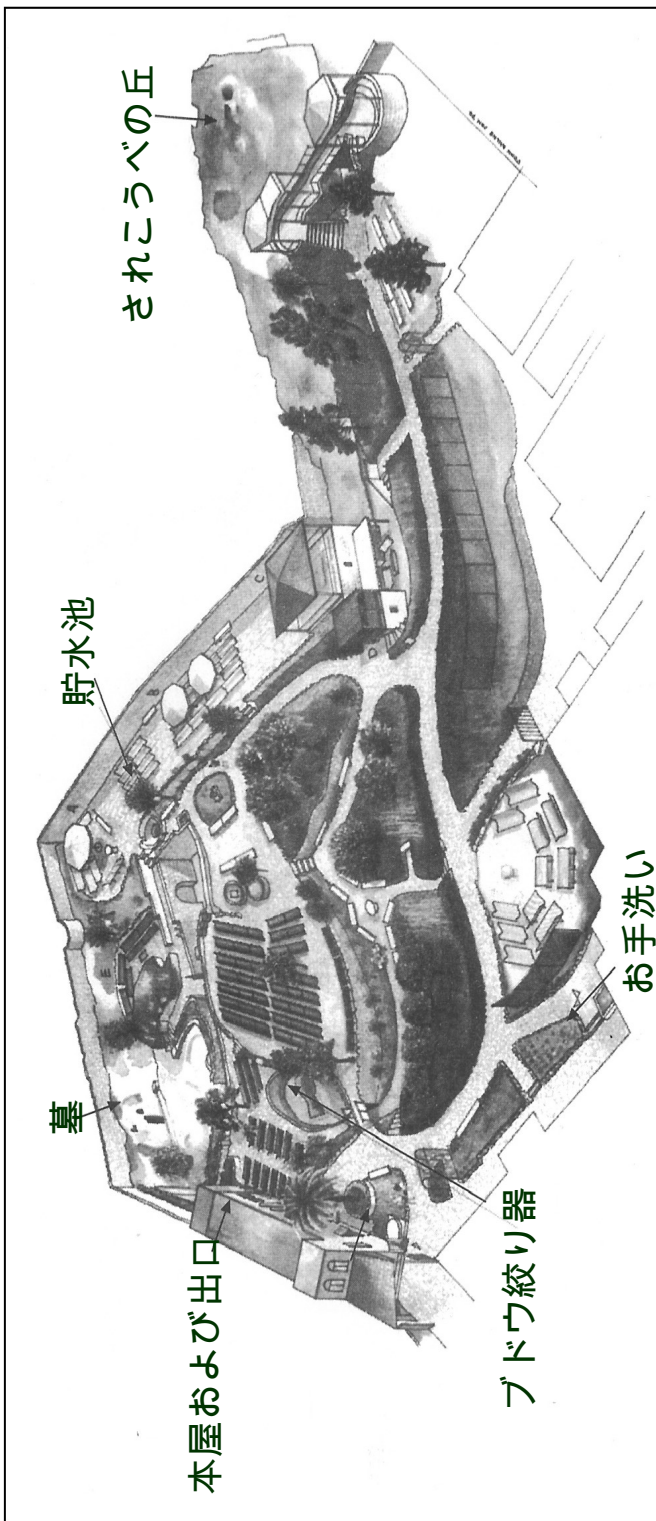
当園への入場料は頂いておりません。当園は訪問者の自発的な献金によって維持されております。

連絡先:

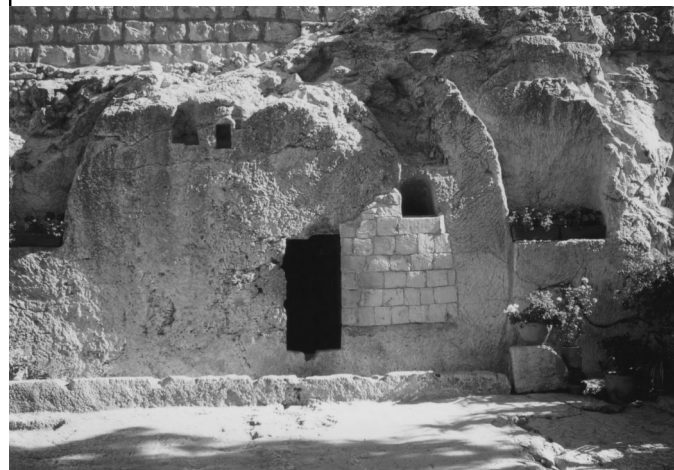
The Garden Tomb (Jerusalem) Association, England;
established in 1893 for the preservation
of the Tomb and Garden
outside the city of Jerusalem,
believed by many to be the Sepulchre and Garden
of Joseph of Arimathea.

PO Box 19462, Jerusalem, Israel 91193

www.gardentomb.com



園の墓へようこそ



当園は、多くの人々によって、イエスが磔刑の後、埋葬されたアリマタヤのヨセフの園であったかも知れないと信じられているため、キリスト教の聖地として注意深く保管されてきました。ここはイギリスの独立慈善信託、園の墓協会によって維持されています。どうぞ当園を散策し、その精神的な意味を体感してみてください。

もしご質問がありましたら、バッジを着用した我々のスタッフが喜んでお助け致します。

それでは、右に曲がり、道路案内標識に従って、されこうべの丘へとお進み下さい。

当園の遠端に位置するプラットフォームに立たれますと、そこからバス停が見晴らせるでしょう。左手には荒い断崖が、右手には旧市街の北壁が見えるはず。この場所はかつて古代の石切り場の一部でした。石切り場はユダヤ人によって石打ち刑の場所として、またローマ人によって磔刑の場所として使われていたと言われています。

磔刑は通例、他の潜在的な反乱者への見せしめとして、交通量が多い道路の傍で執行されていました。これはまさにダマスカスとエリコへつながる主要道路があるような場所であったかもしれません。聖書によると、十字架を背負ったイエスはエルサレム市街から『されこうべ(アラム語でゴルゴタ、ラテン語でカルバリ)の場』へと引き出されたといわれます。そこで彼は二人の盗賊とともに、嘲る民衆の前で十字架につけられ、道を通り過ぎる人々は彼に侮辱を浴びせました。

どこでイエスの磔刑が起こったか、確実なことは言えませんが、本当の場所は実際に起こったことの精神的な重要性に比べればさほど大切なことではありません。イエスは自ら十字架の上での死を選ばれました。全ては我々に赦しを与えようとした神の愛情溢れるご計画のうちにあったのです。聖書に書かれているように、『そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。』『キリストも、罪のためにただ一度苦しみました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。』(ペテロの第一の手紙 2:24および3:18)

4世紀のコンスタンティヌス帝時代に遡る聖墳墓教会が、伝統的にかの畏



されこうべの形をした断崖

怖すべき出来事が起こった場所とされてきました。その信憑性を巡って、200年以上にわたって疑問が投げかけられてきました。チャールズ・ゴードン將軍は、石切り場(現在のバス停がある場所)がエルサレム市壁の外で執行されたであろうイエスの磔刑の場所であったという見解の最も有名な主唱者です(なお、聖墳墓教会は、現在エルサレム旧市街の市壁の

内部にあります)。確実なことはいませんが、左手に見える岩に人間の頭蓋骨の形を認めるのは興味深いことです。プラットフォームに備え付けられている写真は、丘の中腹が既に『されこうべの丘』として知られていた120年前のイメージを示しています。

聖書によると、『イエスが十字架にかけられた所には、一つの園があり、そこにはまだだれも葬られたことのない新しい墓があった。』(ヨハネによる福音書19:41)。その園は、イエスの隠れた弟子であったアリマタヤのヨセフに所属していました。ユダヤ教の安息日が始まる前に、すぐ近くにある彼の所有する墓にイエスの遺体を埋葬する特別な許可が彼に与えられました。

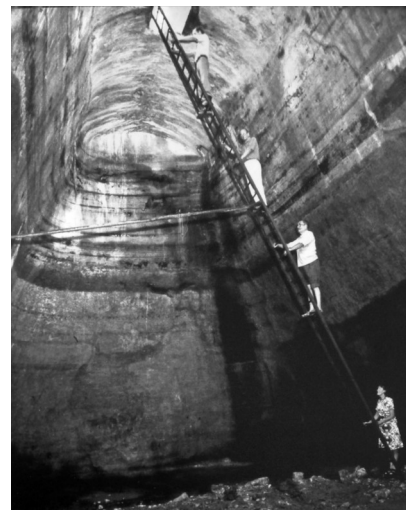
それでは、墓の標識のあるところを右に曲がって、当園の内側へとお戻り下さい。

さらに進まれますと、木に掲げられたカラー写真が右側に認められるはず。足下にあるのは、200000ガロン(約百万リットル)の容量を誇るエルサレムで三番目に大きい貯水池です。この貯水池は、オリーブ園、果樹園、ブドウ園といったイ



古代のブドウ絞り器

エスの時代の労働園であった証拠を示しており、前キリスト教時代のものであると確証されています。私たちの店に向かう短い迂回路を歩まれますと、良好に保存されているブドウ絞り器が見えるはず。このブドウ絞り器は1924年に発掘され、イスラエルの地で発見されたものとしては、最も大きなものの一つに数えられます。ブドウ絞り器の存在は、当園が元々広大なブドウ園であったことを示唆しています。それはかの裕福なアリマタヤのヨセフの園だったかもしれません。



雨水貯水池

墓の前の岩場へと階段を降りていくと、園の墓のクライマックスが待ち受けています。この墓は1867年に発掘されました。不幸なことに、墓の入り口には、かつて(恐らく地震のために)損傷した後、石のブロックによって修復された跡があります。

全ての考古学者が墓の年代について一致しているわけではありません。しかし、著名な考古学者キャスリン・ケニヨンが、1970年にこの墓を「紀元後1世紀の典型的な墓」と記述しています。

注目すべきことに、イエスの墓についての聖書の記述の中で言及されている全ての特徴をここに認めることができます。

天然の洞窟ではなく、硬い岩を掘って造られている。(マタイによる福音書27:60)

正面の壁の外側にある溝が示唆しているように、巨大な転がる石によって封印されていた。(マタイによる福音書27:60)

数人の哀悼者が内部にある大きな嘆きの部屋の中に立つことのできるスペースが存在したと思われる。(ルカによる福音書24:1-3, 10)

こうした詳細は、巨大な貯水池やワイン絞り器と同様、アリマタヤのヨセフのような裕福な男の富を想起させます。加えて、埋葬場所は墓の右側にあり(マルコによる福音書16:5)、外から覗き込むことが可能であった(ヨハネによる福音書20:5)と思われる。

後年、ビザンチン帝国時代と十字軍の時代、この墓は恐らくクリスチャンの礼拝のために使われていました。洗礼堂と思われるものと2つの十字架(その内一つは墓の内部にあります)は教会の構造を示唆しています。



岩を掘って造られた墓